



東北大学

令和3年度 一般選抜入学試験 個別学力試験
出題意図【英語】

【前期日程】

大問1

出題意図

フランス料理やイタリア料理といったものが歴史的に形成される際に印刷物、つまり料理の本が必要不可欠な役割を果たしたこと、そして、そうした印刷物がひいては国民・民族（nation）の形成に大いに関係していることを説く論説文からの出題でした。複雑なセンテンスを論理的に理解する能力、段落ごとの意味のまとめ、および段落間の関係を把握する能力、前後の文脈から単語の意味を捉える能力をみる問題でした。なお、本文中で言及される書籍のタイトルについては原著の表記を尊重しました。

講評

問1

センテンスの文法的構造を理解できているかどうか、単語の意味を文脈に即して把握できているかどうか重要な問題です。接続詞“and”によって何が接続されているのか、といった点を考えることがポイントです。構文を把握するのに苦心した解答が多かったように見受けられました。

問2

文章の論理的な展開を理解できているかどうかをみる問題でした。本文では「産業化」が「より均一な食の様式」の形成に関与していることが主張されていますが、その前のセンテンスにおいて「産業化」のもたらした「食事」への「影響」が具体的に言及されています。該当部分を的確に訳出している解答よりも、それ以外の部分を延々と訳出している解答が目立った印象です。

問3

文章理解の鍵となるフレーズが何を指しているのかを理解できているかどうか、ま

た、段落と段落のあいだの関係を正しく理解できているかどうかといった点が重要になる問題でした。下線部のある段落に“multiple audiences”という表現があり、次の段落には“a wider international audience”という表現があることなどをヒントにすると、この“This inward orientation”が何を指しているかをうまく理解することができるでしょう。下線部の含まれた段落だけでなく、その前後の段落の記述にも目を配って解答することができた答案は少なかった印象です。

問4 解答:(1)ア (2)エ (3)ア (4)ウ

文章それ自体、そして前後の文脈から単語の意味を把握する力を問う問題でした。あえて日本語にしてみると、(1)は「浮かび上がらせる、はっきりと示す」、(2)は「はっきりと」、(3)は「分裂」、(4)は「混ぜ合わせる」というような意味になるでしょう。

問5 解答:(イ)、(エ)

各選択肢の記述を本文の記述ときちんと照らし合わせ、本文の内容を正確に把握できているかどうかを問う問題でした。(ア)は“cookbooks were insignificant”の部分が本文の記述と矛盾しているので不正解です。(イ)は本文の内容から正しいと判断できます。(ウ)は“*Science in the Kitchen and the Art of Eating Well* overcame the dishes of Tuscany and Emilia-Romagna”の部分などが本文の記述と食い違っています。(エ)は本文の内容から正しいと判断できます。(オ)は「レストラン」が“the idea of authentic French food”を“upsetting”していた、という部分などが本文と矛盾しています。(カ)は“should have relied”の部分などが本文と食い違っています。

大問 2

出題意図

プロのテニス選手、ジャグラー、コメディアンなどの具体例を挙げながら、感情が行動に微妙に影響を及ぼすことや、すべての人間には意図したことを行動に移す際に無意識に作用する一定の手順が備わっていることを主張するエッセイからの出題でした。文と文とのつながり、段落ごとの意味のまとめ、そして、段落間の論理展開をしっかりと追うことで、著者が言いたいことを正しく理解できるかを問う問題でした。

講評

問 1

文の前後の流れを読み取る問題でした。下線部の前に書いてある文 (“As she bounced the ball, …”) を見つけ出し、この部分を適切な日本語で表現しているかどうかポイントになります。ほとんどの受験生はこの部分に注目して解答していましたが、「その結果、試合に負けてしまった」とか「気が動転してしまった」ということまで記述してしまっている解答も多くありました。

問 2

文の前後の流れを読み取る問題でした。下線部の前後に書かれている内容を適切な日本語でまとめているかどうか重要です。前半部分には触れず、後半部分だけを書いている解答が多く見られました。とくに、後半部分に含まれている“a third ability”と第一および第二の能力との関係を説明していない解答が多くありました。また、基本的な単語や表現 (“juggle”, “keep time”, “joint monitoring”, “a third ability”など) を理解していない解答も見られました。

問 3 解答:(ア)

文章の論理的な展開を正しく理解できるかを問う問題でした。下線部の後に書かれている内容から、“a serious question”が2つの部分から成立していることを読み取ることがポイントになります。“Let us leave the first part of the original question unanswered”の後に出てくる“whether, in principle, we are all capable of every kind of mental formula”が選択肢の中に書かれている“do we all have that formula latently”に対応していることから (ア) が正解になります。

問 4

文の文法的構造の理解力を問う問題でした。文全体が従属節・主節構造であること、従属節内と主節内において仮定法が使われていること、従属節内の“translating gasoline into movement on wheels”が“no machine”を修飾していること、主節内の主語が“no thought or action that takes place in milliseconds”であることなどを理解できているかどうかが重要です。ほとんどの受験者は文全体の構造を正しく理解できていましたが、後半の主節部分に関する誤りが多く見受けられました。とくに、“takes place in milliseconds”が適確に訳されていない解答が多くありました。

問 5 解答:①(ウ) ②(ア) ③(イ) ④(エ)

文章の前後関係から適切な単語を推測する力を問う問題でした。

①同じ段落にある表現 (“A natural reply would be, “The message sort of affects everything.” But actually it almost always applies at the micro level./Implicitly, our culture has always accepted the idea that there is a connection between large mental states and microphysical states.”) または、次の段落の書き出し (“I have argued that our emotions can be projected into our body in subtle ways.”) の内容から、(ウ) が正解になります。

②空欄の上に書かれた文 (“all normally developing children...”) の内容から、(ア) が正解となります。その他の選択肢は、すべて空欄の直前に書かれた文 (“More broadly, it seems...”) 中の“an inborn architecture”の具体例として考えられるため、答えには該当しません。

③空欄の後のコロン以降に書かれている内容から、同一の表現 (“OK”) を表す(イ) が正解になります。(ウ) の“similar”は「類似している」ことを意味し、また、定冠詞“the”の後では使わないため、答えには該当しません。

④文全体から判断する必要があります。具体的には、3 段落目にある最後の一文 (“Now let us consider a difficult question: do we each have slightly different mechanisms, a slightly different formula, for linking our feelings or intentions to physical expressions?”)、または、5 段落目に書かれている内容 (“So let’s leap to the extreme and assert that every human being composes unique, unconscious formulas: every individual carries unique formulas that guide his or her actions.”) から、(エ)が正解になります。

大問 3

出題意図

大学新入生の Nicole と Matt のパソコンに関する会話文です。Matt は入学時にパソコンを購入しなかったのですが、古いパソコンが不調なため、新たなパソコンの購入に際して Nicole にアドバイスを求める内容になっています。会話の内容を理解した上で、適切な表現を選択できるかどうか、会話の内容を参考にして、自分の意見を適切に英語で述べられるかどうかをみる問題です。

講評

問 1 解答:①c ②d ③b ④a

①一般的な挨拶表現の知識をみる問題でした。①を受けて Matt が“I’m not great actually…”と答えているので c が最も適切です。

②Matt が言いたいのは「買わなければならないと知ってはいたんだけど」ということなので d が正解です。

③表現力をみる問題でした。Matt は自分のパソコンは「そういうこと」(“any of those things”) さえできないので、「楽しいこと」(“anything fun”) もできないと言っています。“not to mention～”には「～は言うまでもなく」という意味があるので b が正解です。

④表現力をみる問題でした。Matt は“hard drive space”を 2～3 年後に使い切ってしまう、新しいパソコンを買わなければならない事象を避けたいと言っています。“run out”には「物(在庫・補給・契約期間など)が切れる」という意味があるので、a が正解です。

問 2

表と会話文を参照しながら、その内容を理解した上で自分の考えを正しく英語で表現できるかどうかをみる問題でした。ほとんどの受験生は自分の意見を書くことができていました。しかしながら、Personal Detail と Reason の関連性がはっきりしない解答や、選択肢にないパソコンについて記述した解答がありました。また、基本的な文法の間違いをした解答も見受けられました。

大問 4

出題意図

「知的トレーニング」の開始に適した年齢について論じたエッセイを題材に、日本語の意味を理解した上で、それを自分の語彙を使って適切に英語で表現できるかどうかをみる問題でした。

講評

(A) 「はっきりさせない」、「宙ぶらりんの状態」、「自分の身を置く」といった日本語の表現を適切な英語で表現できるかどうか、日本語に込められている意味を文法的に正しい英文で過不足なく表現できているかどうかなどをみる問題でした。「宙ぶらりんの状態」の訳出がうまくできていない解答が多くありました。

(B) 「知的成熟からいえば」、「自我が作られ」、「思考の基礎にある母語も確立される」といった日本語の表現を適切な英語で表現できるかどうか、日本語に込められている意味を文法的に正しい英文で過不足なく表現できているかどうかなどをみる問題でした。元々の日本語の表現にこだわりすぎてしまい、不自然な英文になっている解答が見られました。

【後期日程】

大問 1

出題意図

現代社会において台頭しつつあるポピュリズムを題材に、「人民」とは誰なのか、その「人民」に基礎を置くポピュリズムと民主主義とはいかなる関係にあるのかということ考察した論説文からの出題でした。文章を正確に理解できるかどうか、主要な概念、論理の展開、および全体的な論旨を正確に把握できるかどうかをみる問題でした。

講評

問 1

文章の構造を理解する能力を問う問題でした。とくに、that 節以下で挿入的に用いられている“no matter how small”の意味を理解した上で、“Lincoln’s famous phrase”がポピュリスト的に解釈できる理由を適切な日本語で訳すことができるかをみる問題でした。文の構造についてはほとんどの受験生が理解できていましたが、“constitutes”という動詞の理解が不十分である解答が見られました。

問 2

本文で扱われている主要な概念についての定義を正確に把握することが求められました。具体的には“The first, ...”、“The second definition of people”、“Finally, there is a third definition of people ...”の各文でなされている“people”の定義を定められた文字数で要約できるかどうかを問う問題でした。第一と第二の定義についてはほとんどの受験生が正しく解答できていましたが、第三の定義については“the less affluent sectors of a society”の理解が不十分である解答が散見されました。

問 3

著者の主張を文脈に沿って把握できているかどうかをみる問題でした。具体的には下線部のなかの“the opposite”が直前で述べられている“the dominant view”と逆のことであることを理解できているかが重要になります。したがって、“the dominant view”が“not necessarily anti-democratic”であることを理解した上で“populist perspectives”がいかなるものかを説明することがポイントになります。“almost unavoidably incompatible with democracy”の意味を把握できていない解答が見受けられました。

問4

文章のなかの代名詞が示している事柄を理解できているかどうかをみる問題でした。“Such populist”とは直前の“there are also populists who...”以下を指していることを理解した上で、そこで述べられている特徴を“not just..., but...”の用法に留意しながら的確に要約できているかがポイントになります。ほとんどの受験者は正しく解答できていました。

問5 解答:(ア)、(ウ)

本文全体の論旨を正確に理解しているかどうかをみる問題です。(ア)は本文の内容と合致します。(イ)は“Democracy and populism...have the same views”の部分が誤りです。(ウ)は本文の内容と合致します。(エ)は因果関係が逆になっているので誤りです。(オ)は本文ではポピュリストが民主主義を受け入れるかどうかについては“only an empirical in-depth investigation of the reality and ideology of a series of comparable populist movements can offer a satisfactory answer”と述べられているので誤りです。

大問 2

出題意図

「書く」という行為が手書きからデジタルテキスト化していくなかで、インフォーマル・ライティングのコミュニケーションにおける役割について考察した論説文からの出題でした。比較的平易な英語で書かれている論説文全体の大意を把握するとともに、自らの経験と照らし合わせながらその内容を発展的に理解した上で、個々の設問に日本語や英語で的確に解答できるかどうかをみる問題でした。

講評

問 1

文章を理解する鍵となる考え方とそれを示す表現がきちんと理解できているかどうかを問う問題でした。「書く」という行為を“technology”だと考える根拠をこの段落から正しく読み取り、その内容を日本語でわかりやすく述べているかがポイントになります。「話したり、身振り・手振りをしたりするには身体さえあれば十分だが、書くことには身体の外部にある道具が必要になる」という点が正確に理解できていない解答が散見されました。

問 2

文章の論理的な流れを正しく理解した上で、この文の意味がきちんと把握できているかどうかを問う問題でした。本文中で挙げられている5つの事例から複数例を用いて、書く状況と使用する道具の関係について述べているかがポイントになります。用いるべき例についてはよくできていましたが、その例に沿って下線部の意味を理解するという点では不十分な解答が多くありました。

問 3

文の構造、語彙力および理解力を問う問題でした。主語となる“Early visualization of cyberspace”および“three-dimensional representations of ourselves”が示すところの意味を正しく理解した上で、文章全体を適切な日本語で表現できているかがポイントになります。文全体の意味はおおよそつかめていましたが、“Early visualization of cyberspace”の部分のをうまく訳出できていない解答が散見されました。

問4

文章の論理的な展開を正しく理解できているかを問う問題でした。「どのようにしてつくられたのか」は、下線部の前後にわたって述べられています。この部分を正確に理解し、重要な点に絞って日本語で簡潔にまとめられるかどうかポイントになります。解釈の不正確さが散見されましたが、比較的よくできていました。

問5

著者の主張を文章全体から理解した上で、自らの考えを的確な英語で表現することができるかどうかをみる問題でした。著者の考えと自分の経験を照らし合わせながら、自らの立場を明確に主張できているかどうかポイントになります。比較的よく書けていましたが、自分の考えを適切な理由とともにきちんと述べるという点では不十分な解答が一定数ありました。

大問 3

出題意図

「近代」の諸問題を考察するやや抽象的な文章を正確に理解した上で、それを適切に英語で表現できるかを問う出題でした。

講評

(A)

下線部およびその前後の日本語の記述をしっかりと理解できていないと思われる解答が多かった印象です。また、関係代名詞や接続詞の **that** の使い方が適切ではない解答も目立ちました。

(B)

下線部の日本語の意味を適切に把握できている解答が多かった印象です。ただし、時間の制約があったせいか、英語に訳すときに一部を記述し損ねている解答が散見されました（例えば「いながらにして」といった箇所など）。

○志願者へのメッセージ

本学の長文問題の最近の出題傾向は、分量は比較的多いものの、内容的には読みやすいものになっています。ただし、ある程度の抽象度のある長文ですから、英文の構造を正確に把握し、設問の要求に合わせて必要な情報を取り出し、これを適切な日本語として作文する能力が必要となります。そのため、一定量の英文をできるだけ多く、全体の内容をつかむという訓練と同時に、構文の理解や語彙力に支えられた正確な読解や、前後の文脈から語句の意味を類推する読解を行う訓練も必要です。

いわゆる四技能を重視する英語教育の結果、英語によるコミュニケーション能力は以前に比べて伸びてきているのかもしれませんが、しかし、外国語である英語で書かれた文章を正確に読み、自分の考えを正しい英語で論理的に表現するという点を疎かにすることはできません。今回の解答でも、与えられた英文を知っている語彙で無理に直訳したり、フィーリングで意味をつかんで訳したりしているものが散見されました。そういう解答の多くは、主語と述語の関係が崩れてしまい、日本語として不明瞭な解答となっていました。解答を終えたら最後に自分の書いた文が筋の通る日本語になっているか、自分の意図した意味を表した文になっているかを点検してほしいものです。英文の内容や問題のポイントをつかむことができても、答案を適切に作成するための日本語の表現力が十分でなければ得点につながりません。過不足なく答案を書くという技術は、たとえ母語であっても簡単ではありません。日頃の訓練がものをいいます。要は、母語であれ、外国語であれ、ことばを大切に読み方、書き方ができるかという点を十分に訓練してほしいと思います。

最後に、ことばによる表現においては、丁寧に書く、誤字脱字をしない（英語であればスペルミスをしない）など基本的な注意事項の他に、文法・論理・修辞という点も重要です。英語作文の場合は、修辞（レトリック）という点は受験生には要求されないにしても、文法的ミスをしないことや（例えば、主語が三人称単数で現在時制の際は動詞に“s”をつけるといった初歩的な点）、論理的な展開にも注意してほしいと思います。そのためにも、英語以前の問題として、普段から日本語による表現をする際にも、こういった点を十分に注意してほしいと思います。また、採点者にとって非常に読みづらい文字で書かれた答案も少なくありませんでした。結果として受験生本人が損をする結果になりかねませんので、他者に見てもらおう解答であるということにも注意してほしいと思います。